



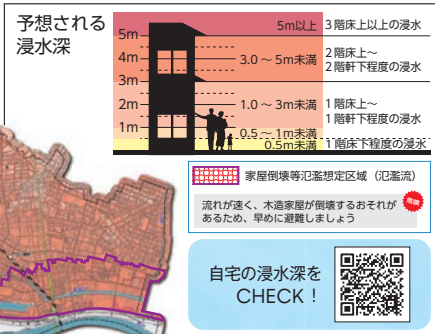
荒川氾濫時の避難行動を検討しましょう



荒川の堤防の能力をはるかに上回る大雨(発生するのは概ね1000年に一度の確率)が続いて荒川が氾濫した場合、市内は全域が水没します。市とは切っても切り離せない水害時の避難行動の分析をした結果から市民の皆さんに知っておいてほしいことを取り上げてお伝えします。災害はいつ起こるか分かりません。命を守るための「広域避難」について、自分自身や家族で考える機会を設けてください。

■問い合わせ 危機管理防災課(内線451)

もし荒川が氾濫しそうになったら▶ 事前に市外へ避難してください



水害は予測できる災害なので、「**広域避難**」する場所を事前に確保しておくことで、早めの行動ができます。災害リスクについては、「**戸田市ハザードブック**」をご覧ください。



戸田市ハザードブックをCHECK!

●**広域避難** ほかの市町村にある親戚や知人の家、宿泊施設など、浸水しない安全な場所へ避難すること。

災害時の避難には時間がかかります

市民の90%が広域避難するためにかかる時間は、徒歩の場合は**約2時間**、車の場合は**約25時間**と想定されます(避難者のうち30%が徒歩、70%が車で避難すると仮定)。避難には予想以上に時間がかかりますので、早めの避難の判断が必要です。

水害時に安全を確保するために大事なこと



・避難先の確保

広域避難先を考えておかなければ、いざという時にすぐに行動できません。**広域避難先を検討し、避難先を確保**しましょう。

・早期避難なら車での避難も可能

ただし、災害が差し迫った段階では、**渋滞を避けられる徒歩での避難**を優先に考えましょう。

逃げ遅れた時は▶ 最後の選択肢「垂直避難」

浸水している最中に、外へ出て避難するのは危険です。逃げ遅れてしまったら、近くの高い建物など浸水から身を守る場所へ避難(垂直避難)しましょう。

自宅の状況	避難行動	対象市民の割合
 ●全居室が浸水し、上階へ避難不可 ●水の勢いで家屋(木造)が倒壊する危険がある地域 例: 平屋に住んでいる方	必ず避難 (近くの高い建物へ)	25%
 ●全居室が浸水するが、上階へ避難可能 (集合住宅で、居住階は浸水するが上階に非浸水階がある) 例: 浸水深が3~5mの地域でマンションの2階に住んでいる方	必ず避難 (建物の上層階へ)	25%
 ●自宅が浸水しない、または浸水しない階がある (1階のみ浸水する2階建て戸建住宅や、集合住宅の高層階など) 例: 浸水深が3~5mの地域で3階以上に住んでいる方	備蓄があれば在宅避難は可能	50%

荒川氾濫時の浸水想定などから、自宅にとどまることができない方が、市民全体の50%であることがわかりました。逃げ遅れてしまい、危険が差し迫っている状況では、「命を守る」ことを最優先に、**垂直避難**してください。ただし、垂直避難は、逃げ遅れた場合に命を守るための**最後の選択肢**です。上層階へ避難できても、ライフラインはストップし、水が引くまでに最大1週間程度かかることが予測されますので、乗り越えるための備蓄など準備が必要です。

このページについて詳しくはこちら

